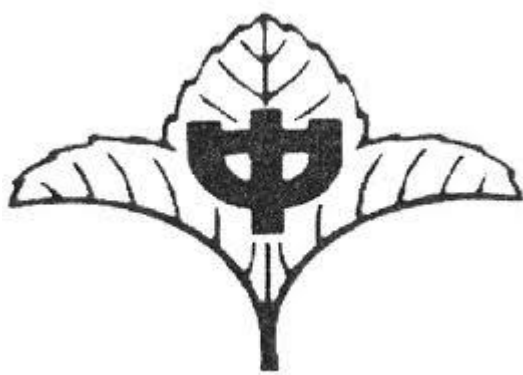


船橋市立大穴中学校

学習のしおり



____年 組 番
氏名 _____

もくじ

もくじ	p 1
なぜ私たちは勉強するの？	p 2
【大穴中の授業に関して】	
大穴中の授業に関して教えて！	p 3
授業で気をつけることは？	p 4
【家庭学習、テスト勉強について】	
家庭学習の意義とは？何をすれば？	p 5
家庭学習で気をつけることは？	p 6
家庭学習の方法	p 7
家庭学習の例	p 8
テスト勉強ってどうやればいいの？	p 9
普段の生活で気をつけることは？	p 10
【各学年のポイント】	
中学1年生の学習について	p 11
中学2年生の学習について	p 12
中学3年生の学習について	p 13
【各教科のポイント】	
社会	～より良い社会を実現するため～ p 14
数学	～筋道を立てて物事を考えるため～ p 16
理科	～生活で起こる現象を理解するため～ p 18
英語	～外国語によるコミュニケーション能力を高めるため～ p 20
国語	～全ての教科の基礎基本の教科～ p 22
美術	～遊び心を忘れちゃだめ！～ p 24
音楽	～音楽文化と豊かに関わるために～ p 26
保健体育	～健やかな身体をつくろう～ p 28
技術	～生活を豊かにするものづくり～ p 30
家庭科	～よりよい生活の実現と持続可能な社会へ～ p 32
道徳	p 34
保護者の方へ	p 35



なぜ私たちは勉強するの？

- ◆ 豊かな人生を送るため ◆ 楽しく仕事をするため
- ◆ 素晴らしい友達や人と出会うため
- ◆ 騙されて酷い目にあわないようにするため
- ◆ 何が正しいか、判断できるようになるため
- ◆ 将来、自分になりたい職業に就くために必要だから
- ◆ 脳のトレーニングを行うため

「なぜ勉強をするのか？」それは、人によって得る答えが違っていてもいいと思います。本で調べたり、インターネットで検索したりすると、様々な答えが出てきます。それは、決まった正解がないため、みんなが一生懸命考えて模索しているからです。決まった正解がないからといって、「勉強をすることに意味が無い」とは言えません。上に勉強をする理由として考えられることのごく一部を挙げてみました。みなさんも一回、「なぜ勉強をするのか？」考えてみてください。

この学習の手引きは、学習のアドバイス集です。

- ① 普段の授業で意識することを確認してください。
- ② 家庭学習やテスト勉強で困った時に参考にしてください。

(各教科「何を」「どのように」勉強すればいいのか)

大穴中の授業に関して教えて！！

「授業の心得」や教科リーダー、学習委員の活動

授業の心得を徹底する！

大穴中学校には「授業の心得」というものがあります。授業を受ける上で大切なことを確認するために、全教室に掲示されています。当たり前のことを徹底していきましょう。

授業の心得

- ① 学習用具をそろえる
- ② チャイム学習を守る
- ③ 話を最後まで聴く
- ④ 自分の考えを表現する

※「おおあな」で覚えましょう！

①置く場所（学習用具）は机の左側。★もちろん忘れ物は厳禁！学習環境を。

②終わりと始まりの時間を意識する。★時間は平等。50分間集中しよう。

③相手を見て最後まで聴く。★耳と目と心で聞く！友達の意見も聴く。

④「なるほど！」を増やす。★考えを共有し、「なるほど」が溢れる学級に。

教科リーダーと学習委員

クラスには各教科のリーダー2名と学習委員が2名います。

教科リーダーは授業開始前に授業の心得の点検活動を行います。また、授業の反省や持ち物の呼びかけ等をして学習環境を整えます。

学習委員は、学習環境をよりよくするために様々な活動を行います。

例…予想問題作成、3分前着席呼びかけ、家庭学習点検 等

授業で気をつけることは？

毎日の授業を大切にしましょう。

「凡事徹底」(ぼんじてってい)

「何でもないような当たり前のことを徹底して行う」という意味です。

中学校生活の大半の時間は授業です。その授業がわかると楽しくなり、中学校生活を楽しく送ることができます。逆に、わからないままにしていると、面白くなくなってしまうです。授業を大切にすることによって、授業の内容を理解することができます。

授業のポイント

授業の心得を徹底する。

学習用具をそろえる。チャイム学習をする。
話を最後まで聴く。自分の考えを表現する。



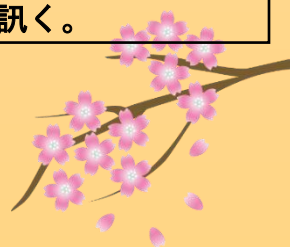
授業中の意識は？

自分の考えをしっかりとつようにする。疑問「なぜ」を大切にする。

★復習しやすいノートを手がける。聞くととき、メリハリをつける。学習を振り返る。積極的に発表するとともに、仲間の発表を静かに聴く。考えを共
する。授業でわからないことがあったら、先生や友達に訊く。

予習・復習する。家庭学習の充実を図る。

授業内容を忘れないように復習する。知識の定着を図る。
自分と向き合い、努力を継続する。最後までやりきる。



ノートの取り方

ノートは、先生の話（聴覚）と教科書の文字や図表（視覚）を結びつけるものです。ノートをとることで、先生の話や教科書がまとめられますし、手を書くことによって記憶が定着します。自分の意見もメモしましょう。

〈ノートをとるポイント〉

- ・簡潔に
- ・段落をつける
- ・見出しをつける
- ・月/日を入れる
- ・重要なことにカラーでアンダーラインを引く
- ・大事なことをメモする

※ノートは自分の財産です。日頃から大切にしましょう。

家庭学習の意義とは？何をすれば？

勉強するってたのしい！と思える環境を

最終目標…「自学自習」できる

なぜ家庭学習が大切なのか？

①これまでの全国学力・学習状況調査における分析結果から、「家庭学習をしている生徒ほど国語・数学ともに正答率が高い傾向がある。」

=家庭学習の習慣がつけば、学力が向上する。

②時代の大きな変化の一つとして人口知能（ＡＩ）の飛躍的な進化が挙げられる。ＡＩは知識を概念的に理解できるが、同時に人間の最も大きな強みは**思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできること**。ではないか？つまり、自分で目的（学習）を考え、取り組んでいくことが必要である。

では何をすればいいのか？【ヒント】として…

①疑問に思ったことを調べる

教科書のわからない単語や言葉は辞書で調べる。マーカーで重要な単語をひく。普段から、「なぜ」を見つける習慣をつける。そして、すぐ調べる。

② 本を読む

知識や情報を得る。様々な立場や考え方を知る、自分の生き方や社会との関わり方を考える。⇒自分の考えを広げる・深める。



③学校の予習・復習を行う

何をどのように学習するのかを考えて、自分に合った方法で実践する。

④「できる」ことを増やす

まずは、「読み書き計算」から。

計算練習・学校配付のワークをノートにやる。

正解した問題にはしるしをつけ、間違えた問題を重点的に解くようにする。

※「NHK for school」等、インターネットの教材を活用するのも◎！

家庭学習で気をつけることは？

習慣化させるためのヒント

① 決まった時間に毎日こつこつ

歯磨きのように、決まった時間に決まったことを行うこと。毎日継続すること。

例…朝起きたら〇〇、ご飯食べ終わったら△△、寝る前に■ ■ 等
人間には忘れる力がある。逆を言えば、繰り返せば忘れない。(科学的にも) 時間を大切にする意識をもとう。(10分でも365日続ければ…)

② 集中する「ながら勉強」しない

音楽、テレビ、スマートフォン等、誘惑に負けない。勉強に集中する。

③ わからないままにしない

自分と向き合うことで、やるべきことが見えてくる。「何となくやった」、機械的に「ただやった」にしない。ただ答えを写すだけでは理解につながらない。答えを見てどこでつまづいているのか把握することが大事。調べたり、解説を見たり、先生に聞いたりして理解しよう。わからないところをそのままにしないようにしよう。

④ 勉強できる環境をつくる

落ち着いた場所をつくる。毎日同じ場所で行うのもよい。

人の目の届く場所、例えば自習室や図書室などで集中できる人もいます。

やる気スイッチオン！

※千葉県教育委員会HPの「家庭学習のすすめ」を参考にしてください。



普段、音楽を聴きながら勉強をしていたけど、確かに、頭に入っていなかった気がするわ・・・
気をつけないと。

家庭学習の方法

家庭学習のポイント！？

ただ意味のないことを毎日ノートに書いても、時間の無駄になります。

どうせ1日30分程度家庭学習をするなら、テスト勉強になるような形にしましょう。

まずやるべきことは、「できるだけ早く終わらせよう」と考えないことです。(やらないは論外)

こういった考え方になると、ただ答えを写すだけの意味のない時間になる。

ではどうやって進めるのか？ 一番良いのは、テスト勉強は何をするかを考えること。

①【コツコツがんばる系】 英単語、漢字、数学の問題、社会や理科の重要語句 など

②【授業復習系】 中学校の授業は、前回扱った内容はほぼ理解できている前提で進むため

「その日の疑問点はその日のうちに解決」「覚えてくださいということを覚える」

ということが、中学校の勉強でつまずかないために必要。 色分けしてまとめるも◎

「毎日コツコツ」をできない人＝「週末にまとめて」もできない人

「今」できないことは、「後からまとめて」もできない。今日がんばった人のみ明日がくる！！

特にお薦め…「数学」と「英語」理由①得意、不得意がはっきりする ②積み上げ式の教科 のため

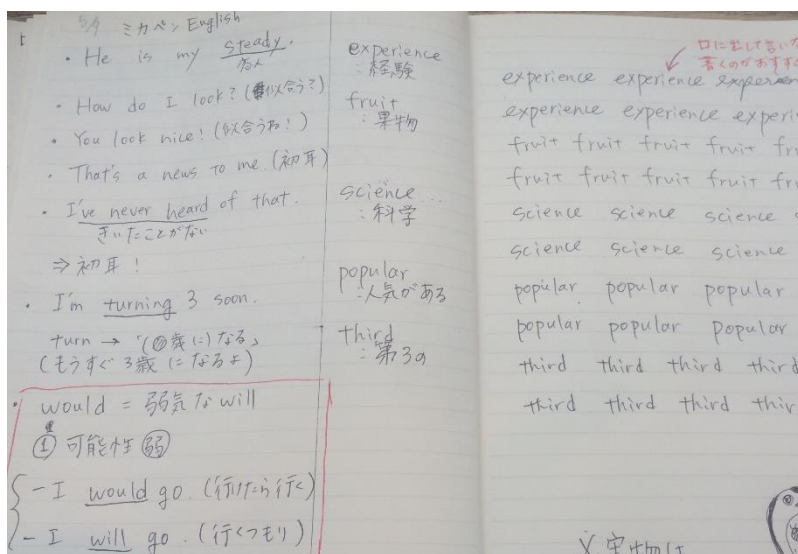
③【授業や宿題の中のミスをその場で潰す系】自分のミスと向き合い、つまずきを理解する

自分のミスの原因や、まだ理解仕切っていないことを、その日のうちにすばやく潰す。

「なんとなくまぐれで取れた90点」よりも

「自分が理解できていないことをしっかり把握している70点」に価値がある！！

家庭学習の例

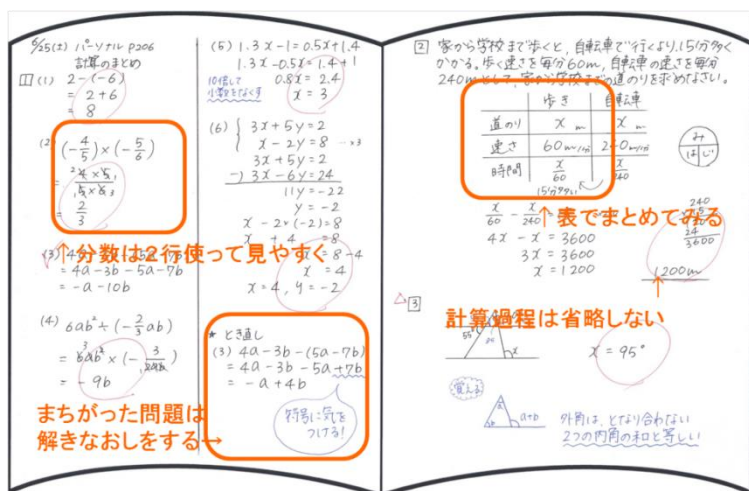
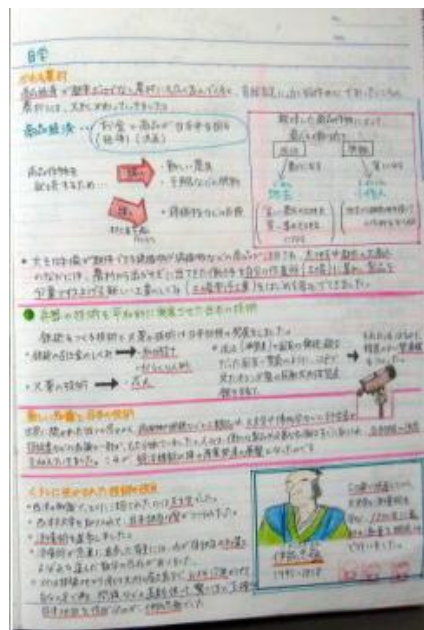


英語や国語は、

単語(漢字)や熟語を!

理科・社会は流れで覚える

色分けや図で表しても◎



数学は教科書やワークの問題を繰り返し解く。

わからないときは、解説を写し、ポイントをまとめるも◎

テスト勉強ってどうやればいいの？

計画を立て、普段の勉強時間を見直す。

定期テストは前期と後期にそれぞれ中間・期末のテストがあります。年間で計4回のテストです。毎回試験範囲が出されてその中から出題されます。計画的に進めないと、テストで思うような結果を出すことができません。



① テスト計画表

大穴中学校では全学年でテスト計画表を配布しています。ポイントは3つです。
見通しをもつこと。ワークを計画的に行うこと。自分と向き合うこと。です。
普段の家庭学習の延長だと考えてください。テストで後悔しないようにしましょう！

② 勉強時間の見直し

学校から下校して自分がどのように過ごしているか考えてみてください。気づいたら時間がたっていたことはありませんか？ゲームをしたり、テレビを見たり、携帯をいじっていたりしていませんか？時間の使い方をより意識しましょう。

なお、定期テスト4日前から諸活動が中止になります。時間を有意義に。

③ 授業の振り返り

授業中に先生が強調をしたり、チョークの色が周りの板書と比べ違ったりしていると、それは重要な事柄であるということです。授業を大切にしておく、そのようなこともわかります。そういった事柄を中心に勉強をしましょう。

④ ワークを繰り返し解こう

各教科で配布されたワークを繰り返し解きましょう。自分の力で解けるようになるまで、繰り返し解いていきましょう。毎回全ての問題を解いていると時間をうまく使えません。間違えた問題をチェックしてできるようになるまで解きましょう。

⑤ 基本問題から取り組もう

「よし頑張るぞ！」と気合を入れて、机に向かったが、問題が難しすぎてやる気を失ってしまう・・・なんていうことがあります。問題の応用問題から取り掛かってしまう人が時々います。始めは基本問題から始め、できるようになってから、応用問題を解けるようにしていきましょう。

普段の生活で気をつけることは？

規則正しい生活、食習慣を身につけましょう。

みなさんの生活は、深夜番組、スマートフォン、そして塾などで寝る時間が遅くなりがちではありませんか？そんな日の翌日は頭がぼーっとして授業に集中できず、保健室に来て「寝不足」を訴える人が多く見られます。昨年度は、「寝不足」からくる「体調不良」で、保健室を利用している生徒がとても多かった。

生活の夜型傾向からリズムが崩れ、学習に対する集中力や思考力が低下します。学習効果を高めるためには①十分な睡眠 ②規則正しい食事など規則正しい生活を送るように心がけましょう。

①十分な睡眠

成長ホルモンは、睡眠中と運動中に体に働きかけます。また、1日の疲れをとるのも睡眠中に出てくるホルモンです。

年齢と必要な睡眠時間

10～12 歳---9～10 時間 13～14 歳---8～9 時間 15 歳以上---8 時間

②規則正しい食事

朝食は起床から昼食までの約6時間のエネルギー源です。特に中学生は成長期であり、部活動に加入する場合もあり、運動も激しくなります。こんな大事な時期に朝食を抜くと体に悪く、授業にも集中できません。できるだけ時間をかけて、よく噛んでゆとりを持って食べましょう。よく噛むことで脳への刺激になり、頭の回転が良くなります。給食も好き嫌いなく、全て食べるようにしましょう。

※健康第一！自分を大切に。



適度な運動も大切だね！そればかりになっては、困ってしまうけどね・・・

中学1年生の学習について

	特徴	宿題	内容
小学校	言われたことをやる	ドリル中心が多い	自分の身近な具体的なこと
中学校	自主性を重んじる	自分で課題を見つける	遠い世界の抽象的なこと

①小学校と中学校の違いについて

小学校では、先生に言われたことをやっていくことが基本となります。中学校では、義務教育最後の3年間ですので、自分自身で課題を見つけ、自主的に学習を進めていくことが求められます。そのため、中学校では宿題も多くありません。しかし、自ら学習を行っていかないと、中学校の内容を理解することはできません。

②学習習慣を身につけよう

中学校に入ると、部活動や授業時数の増加等、生活リズムが大きく変化します。そうなる
と、家庭での学習がおろそかになりがちです。特に1度身についてしまった生活習慣はなかなか身体から抜けません。入学後の4月から7月にかけて、1時間以上家庭学習をする習慣を身に付けるようにしてください。

③小学校でのつまずきを克服しよう

中学校の学習は小学校で学んできたことを基礎基本としています。小学校で学んだことがうまく身につけていないと、中学校の学習についてわからなくなってしまうことがあります。小学校の学習でつまずいている場合、思い切って小学校の学習を復習してみましょう。例えば、「小学校の教科書を使って勉強する」「市販されている小学校の復習の問題集を行う」「教科担任や学級担任の先生に相談する」といったことをしてみましょう。

④予習・復習をしっかりと

中学校での生活をより楽しくするために、予習や復習を行いましょう。中学校の大半は授業です。授業が理解できないと学校生活を楽しく過ごすことができません。しかし、理解できると、授業の楽しさを知ることでしょう。

中学2年生の学習について

	特徴	役割	長所と短所
中学1年	入学して緊張感有り	良い伝統に感動する	一生懸命だが見通し×
中学2年	中学校に慣れてくる	後輩へ良い伝統を伝える	見通しをもてるが、諦め有り

①「悪い慣れ」でなく「良い慣れ」を

上の表は、中学1年と中学2年の一般的な傾向についてまとめたものです。みなさんは中学校に入学したときは、きっと色々なものにチャレンジしよう！という気持ちでいたことでしょう。もちろん中学2年生へ進級してもその気持ちは変わらないと思います。が、うまくいかず、諦めてしまっていることもあるのではないのでしょうか。緊張感が無くなってしまい、「別にできなくてもいい」「これくらいならサボってもいい」というようになってくることを「悪い慣れ」といいます。みなさんにはそうなってほしくありません。「中学校生活も慣れてきたからこんなこともやってみよう」といった、「良い慣れ」が身についてくると良いですね。

②長所を伸ばし短所を克服しよう

人間誰しも得意、不得意があります。例えば数学は得意だけれども、社会は苦手という人がいるとします。得意な数学の勉強はたくさんするけれども、社会は全然やらない。逆に、苦手な社会ばかり気になって、社会は頑張るが、数学はやらないと。どちらもよくはありません。苦手な教科はわかるところまで、戻って徐々に理解を深めていきましょう。逆に、得意な教科については、普段の学習に加えて自分自身でより学習を深めてみてはいかがでしょうか。例えば、書店で難しい問題集を購入しやってみる。自由研究などを利用して市の展覧会へ作品を出品してみる。

③学校の中核としての自覚を

中学2年生になると、後期から学校の中核を担う存在になってきます。例えば、部活動では3年生が引退し、自分たちが部活動を引っ張っていく立場となります。生徒会活動では生徒会本部役員も2年生中心となり、2年生から委員長を選出することとなります。このように学校の中核となるみなさんの活躍を期待しています。しかし、特定の活動だけをやるのではなく、何事もバランスを大切にしてください。「部活動・生徒会活動はしっかりするけど、授業は全然やらない」という風にはならず、けじめをつけて学習に取り組みしましょう。周りの模範に。

中学3年生の学習について

①1・2年の復習をし、受験に備えよう

中学3年生になると、高校入試を意識していかなければいけません。高校入試は中学校で学んだことの全てが範囲になります。膨大な量のため、2，3日などではできません。そこで、夏休みまでの時間を利用して1・2年生の内容を復習するようにしましょう。復習の方法として、市販の1・2年生の復習問題集や学校配付のワークを利用すると効率よく学習できます。間違えた問題にチェックをし、間違えなくなるまで繰り返し解くようにしましょう。わからない問題は教科書を調べたり、先生に質問をしたりしましょう。

②3年生の内容は授業で理解しよう

1，2年生の復習をしなければならないということは、3年生の勉強がおろそかになりがちです。時間を有効活用するためにも、いつも以上に日ごろの授業を大切にしましょう。授業でやった内容は、その日の授業の中や休み時間を利用して理解できるくらいのつもりでいてください。

③高校入試の過去問をやってみよう

自分自身の受験する高校で、どのような問題が過去に出題されたかを知ることによって、どのように勉強すれば良いかがわかります。千葉県の公立高校の過去問だけでなく、受験する予定の私立の過去問をやっておくとも良いでしょう。

④受験は個人戦であり団体戦

小学校から中学校にかけて、通学する中学校は法律で決められた学区が基本です。しかし、中学校卒業後は自分自身で進路を決定しなければなりません。周りの友達とは違う進路を選択し、そのために、自分自身が勉強を頑張らなければいけません。そういった意味で、受験は個人戦です。しかし、団体戦の要素も大いにあります。普段の授業は個別で受けるものではなく、クラスメイト全員で受けます。その授業を大切にしない人が多くなってしまうと、授業に支障をきたします。そうすると、真面目に頑張りたい人も頑張れなくなります。「学級の仲間も頑張っているから、私も頑張れる」という心の支えになります。そういった意味で、受験は団体戦です。最後の1人が進路先を決定するまで、緊張感を持っていけたら良いですね。

社会

～より良い社会を実現するため～



知識・技能

- 《 地理 》「その国、地域がどこに位置し、どのような場所なのか」といった自然環境が人々の生活にどのような影響を与えているかを理解する
- 《 歴史 》「いつ（どこで、誰によって）何が起こったか」を理解する
- 《 公民 》社会のしくみが私たちの生活にどのように結びついているかを理解する

【一問一答による知識及び技能の習得】⇒「知る・できる」レベル

Q. 千葉県の県庁所在地はどこにありますか？

A. 千葉市 → では地図帳を使って千葉市を調べてみよう！

思考・判断・表現

- グループ活動を通して、自分の考えを広めたり深めたりする
- 情報を集め、関連させたり比較したりする中で、社会的事象について考察する
- 資料を使って調べ、今まで学習してきたことを振り返り、自分の考えを論理的にまとめる

【根拠をもとに自分の考えを説明する】⇒「わかる」レベル

Q. なぜ、千葉市が千葉県の県庁所在地になったと思いますか？

A. なぜなら、千葉市の～。→ 論述やレポートを作成してみよう！

主体的に学習に取り組む態度

- 世の中のできごとを自分事のように捉える
- 今まで学習してきたことを自分の生活に生かそうとする
- 粘り強く課題に取り組み、最後までやり遂げる

【問題解決のプロセスを自ら立てて、主張のために知識及び技能の活用ができる】

⇒「使える」レベル

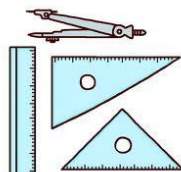
Q. あなたが政府だったら、千葉県のどこを県庁所在地にしますか？

A. 私だったら、……。理由は、～。→ 自分の考えや経験を絡めてみよう！

	第1観点	第2観点	第3観点
A	定期テスト・小テスト等の、知識・技能に関する問題の点数がきわめて高い。	定期テスト・小テスト等の、思考・判断・表現に関する問題の点数がきわめて高い。 設定されたレポート課題に対し、習得した知識、技能を基に、論理立てて自分の考えを表現でき、なおかつ、文字数等の条件を満たしている。	①授業の振り返りシート等で自己分析をしっかりと行い、次の学習に向けて具体的方策を立て、次の学習に意欲的に取り組もうとしている。 ②グループワークで、よりよい学習になるよう働きかけたり、先生や友だちのよい発言をノート・プリントに書きとめたりするなど、粘り強く学習に取り組もうとしている。
B	定期テスト・小テスト等の、知識・技能に関する問題の点数が普通～高い。	定期テスト・小テスト等の、思考・判断・表現に関する問題の点数が普通～高い程度である。 設定されたレポート課題に対し、自分の考えを書こうと努力している。	A 評価の内、①、②のどちらかに工夫や粘り強さがみられない。
C	定期テスト・小テスト等の、知識・技能に関する問題の点数が低い、または受けていない。	定期テスト・小テスト等の、思考・判断・表現に関する問題の点数が低い、または受けていない。 設定されたレポート課題に対し、自分の考えを表現出来ず文字数等の条件を満たしていない。	A 評価の内、①、②のどちらにも工夫や粘り強さがみられない。

数学

～筋道を立てて物事を考えるため～



知識・技能

- 用語や記号などの意味を理解して、正しく使うことができる。
- 計算ができる。図形・表などがかける、読み取ることができる(作図やグラフを含む)。

【授 業】学習した用語や記号などを用いて表現したり、説明を理解したりする。

【家庭学習】①教科書…太字になっている用語をしっかりと覚える。予習で「例題」をやり、わからないところを確認しておく。 ②ワーク…授業でやった内容をその日のうちにやる。すぐ答え合わせをし、できないところは解説を見ながら取り組み、間違ったところはその原因を確認する。 ③家庭学習ノート…間違ったところをもう一度、解説を見ないでやり直す。

思考・判断・表現

- 論理立てて（筋道を立てて）説明ができる。
- 学んだ知識や技能を組み合わせて利用できる。
- 日常生活と関連づけて考えることができる。

【授 業】自分の考えを、筋道を立てて発表する。友達の考えをメモし、その考え方について考察する。わからないことは質問する。

【家庭学習】①ワーク…ある程度時間をかけて（1問10分くらい）、発展的な問題に取り組む。 ②家庭学習ノート…授業の予習・復習を、自分の考え方もふまえながらまとめて書く。いろいろな解き方を考える。日常生活とも関連づけて考える。

主体的に学習に取り組む態度

- 粘り強く考える。
- 学んだことを日常生活や今後の学習に生かすことができる。

【授 業】授業ノートに自分の意見や他の人の意見を書きとめ、考え方の共有や意見交換を積極的にする。提出物をしっかり出す（答えを丸写ししない・期限を守る）。

【家庭学習】①家庭学習ノート…ワークで間違えた問題や教科書の問題は、繰り返しやり直す（教科書の問題は、授業ノートやマ스ナビブックで答え合わせする）。 ②その他…数検・入試問題・自由研究にチャレンジする。

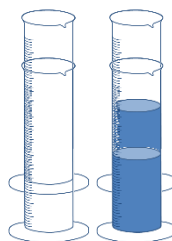
	第1観点	第2観点	第3観点
A	定期テスト・まとめのテスト等の、知識・技能に関する問題の点数がきわめて高い（8割5分前後）。	定期テスト・まとめのテスト等の、思考・判断・表現に関する問題の点数がきわめて高い（8割5分前後）。 「評価用プリント」等で、①自分の考えを論理立てて説明できる。 ②いろいろな解き方を考えたり、工夫したりできる。	毎時間積極的に発表する。 自分の考えを数学的な用語などを用いてわかりやすく表現しようとする。 工夫して考えたり計算したりしようとする。 先生や友だちのよい発言をノートに書きとめている。 ワークの間違ったところを繰り返し練習する。 自己評価の欄に自分の考えやわかった点・疑問点をしっかりと記入する。
B	定期テスト・まとめのテスト等の、知識・技能に関する問題の点数が普通～高い程度である（4割以上）。	定期テスト・まとめのテスト等の、思考・判断・表現に関する問題の点数が普通～高い程度である（4割以上）。 「評価用プリント」等で、①自分の考えを書こうと努力している。②他者の意見を取り入れて、自分の力で解ける。	先生や友だちの話をよくきく。 ノートには板書をうつして、途中の計算なども書いている。 ワークを提出する。 配付プリントをファイルして整理している。 毎時間自己評価を記入している。
C	定期テスト・まとめのテスト等の、知識・技能に関する問題の点数がきわめて低い、または受けていない。	定期テスト・まとめのテスト等の、思考・判断・表現に関する問題の点数がきわめて低い、または受けていない。 「評価用プリント」等で、自分の考えを書くことができない。	授業中に寝る。 学習用具を揃えない。 私語が多く、授業に集中しない。 ノートをとらない。 ワークを提出しない。ワークの答えだけ写して提出する。 配付プリントを整理しない。綴じ込まない。 自己評価を記入しない。

理科

～生活で起こる現象を理解するため～

知識・技能

- 実験の目的や操作を理解して、正しく行うことができる。
- 用語を覚え、その意味を理解することができる。



【授業】実験において、気を付けなければいけない点を理解して取り組むことができる。

【教科書】太字になっている用語をしっかりと覚え、その用語を説明することができる。

【ワーク】授業でやった内容を近日中に学習し、苦手な部分を諦めずに学習することができる。

思考・判断・表現

- 実験操作を行う理由や反応・現象が起こる理由を説明することができる。
- 学んだ知識や技能を組み合わせ利用、表現することができる。
- 根拠を持って自分の考えを自分の言葉で表現することができる。

【授業】実験で出た結果を比較し、そこから得られる結果を自分の言葉で考察することができる。

【ワーク】文章で説明する問題を解くことができる。

主体的に学習に取り組む態度

- 実験等に積極的に参加し、自分の考えを表現することができる。
- 授業の心得を守って取り組むことができる。
- 課題に粘り強く取り組み、最後までやりきることができる。
- 学習の見直しと振り返りを行うことができる。

【授業】授業の心得を守って取り組み、ノートやプリントに自分の意見や参考になった他の人の意見を書く。単元ごとの振り返りで学んだことや気付いたこと、気になることを書くことができる。

【提出物】提出物を期限内に提出することができる。

【その他】自由研究にチャレンジすることができる。

	第 1 観点	第 2 観点	第 3 観点
A	定期テスト・小テスト等の、知識・技能に関する問題の点数がきわめて高い。 実験方法を理解し、的確に取り組むことができる。	定期テスト・小テスト等の思考・判断・表現に関する問題の点数がきわめて高い。 実験結果から、考察を考え、正しく表現することができる。	ノートを丁寧に書き写し、まとめるとともに、自分の意見や他の人の意見を書くことができる。 振り返りで、学んだことや気付いたこと、気になることを書くことができる。 範囲内の問題を提出物範囲以上に取り組むことができる。
B	定期テスト・小テスト等の、知識・技能に関する問題の点数が普通～高い程度である。 実験方法を見て、取り組むことができる。	定期テスト・小テスト等の、思考・判断・表現に関する問題の点数が普通～高い程度である。 実験結果から自分の意見を考え、文章で表現することができる。	ノートを丁寧に書き写し、まとめることができる。 ワークに取り組み、丸付けをすることができる。 振り返りで、学んだことを書くことができる。
C	定期テスト・小テスト等の、知識・技能に関する問題の点数がきわめて低い、または受けていない。 実験に参加しない。	定期テスト・小テスト等の、思考・判断・表現に関する問題の点数がきわめて低い、または受けていない。 実験結果から自分の意見を考え、文章で表現することができない。	ノートを丁寧に書き写し、まとめることができない。 ワークに取り組むことができない。 振り返りで学んだことを書くことができない。

英語～英語で自分の世界を広げよう！～



知識・技能

- ① 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解することができる。
- ② 学習した内容を、実際のコミュニケーションの中で活用することができる。

【授業・家庭学習】

◎英単語のつづりや意味を覚えよう。

◎学習した文法がどのような意味なのかを理解しよう。

⇒たくさん口に出し、手で書くことで知識の定着が進みます。また、ワークやノートを活用した繰り返しの練習も効果的です。学習した英単語や文法に、何度も触れることが定着への鍵です。

思考・判断・表現

- ① 実際の場面で、自分の気持ちや考え、事実などを簡単な単語や文で伝えることができる。
- ② 必要な情報や概要、要点を捉えることができる。
- ③ 英語を用いて自分の考えや意見を表現することができる。

【授業・家庭学習】

◎授業中のペア学習やグループ学習で意欲的にトレーニングしよう。

◎場面に応じてどのような表現を使うことができるのか考えてみよう。

◎必要な情報を意識して聞き取る、読み取る練習をしよう。

⇒実際に相手と英語でコミュニケーションを取ることができるのは、授業の中でだけ！学習した英単語や文法を授業の中でどんどん使って表現力を高めていこう。英語日記や、テーマ別英作文もオススメです。また、教科書を活用して様々なジャンルの文章を読んだり聞いたりしていこう！

主体的に学習に取り組む態度

- ① 自分の学習を振り返り、次の学習、授業に生かそうとしている。
- ② ペア学習やグループ学習に積極的に取り組んでいる。
- ③ 課題にしっかりと取り組む。

【授業】

◎振り返りカードに、授業で気づいたこと、学んだことを記入しよう。

⇒自分の活動を振り返ることで、何を頑張れば良いか、何ができるようになったかが明確になります。自分の言葉で、授業の中での気づきを記入していこう。

◎失敗を恐れず、コミュニケーション活動に積極的に取り組もう。

⇒言語は使わないと習得できない！学習した内容を積極的に使い、定着させていこう。

【課題】

◎問題を解くだけでなく、つづりミスなどがなくよく見て丸付けをしよう。

⇒間違っただけで覚えてしまったらもったいない！「①問題を解く⇒②丸付けをする⇒③直す」のサイクルを定着させよう。

	第1観点	第2観点	第3観点
A	定期テストや単語テスト等の、知識・技能に関する問題の点数がきわめて高い。	定期テスト・まとめのテスト等の、思考・判断・表現に関する問題の点数がきわめて高い スピーチやパフォーマンステストにおいて、学習した内容を活用し、自分なりの工夫をして表現をすることができる。	毎時間積極的に発表する。 活動に積極的に参加する。 自分なりに工夫をしてノートを作成する。 ワークの間違ったところを繰り返し練習する。 授業の振り返りでは、できたことだけでなく、自分の気づき、発見などを記入し自分の学習を深めている。
B	定期テストや単語テスト等の、知識・技能に関する問題の点数が普通～高い程度である。	定期テスト等の、思考・判断・表現に関する問題の点数が普通～高い程度である スピーチやパフォーマンステストにおいて、学習した表現を使って表現をしたり返答したりすることができる。	授業の活動に参加している。 最低限の内容を押さえて、ノートを作成している。 ワークを提出する。 毎授業で振り返りを記入している。
C	定期テストや単語テスト等の、知識・技能に関する問題の点数がきわめて低い、または受けていない。	定期テスト等の、思考・判断・表現に関する問題の点数がきわめて低い、または受けていない。 スピーチやパフォーマンステストにおいて、学習した表現を使って表現をしたり返答したりすることができない。	授業中に寝る。 活動に参加しない。 学習用具を揃えない。 私語が多く、授業に集中しない。 ノートをとらない。 ワークを出さない。 配付プリントを整理しない。綴じ込まない。 振り返りを記入しない。



知識・技能◎「言葉」の働きを客観的に捉える。

- 1漢字を理解する** 計画的に学習して小テストに備える。(自分に合った練習量や練習方法を考え、実施する。) ⇒ 習った漢字を実生活の中で使用する。(文章を書く。)
- 2語彙を増やす** ⇒ わからない語句があったら意味調べをして自身の生活に生かせるようにする。
- 3文章や文を理解する** ⇒ 段落のまとまりや指示する語句、接続する語句を意識して読む。
⇒ 文法を正しく理解する。(文の成分、単語の種類や単語の活用について、文の構成、敬語等)
- 4情報を正しく扱う** ⇒ 情報と情報の関係を捉える。(原因と結果、意見と根拠、具体と抽象等) ⇒ 比較や分類、関係付けなど情報を整理し、要約する。⇒ 情報の信頼性を確かめ、発信する。
- 5古典の作品に親しむ** ⇒ 古典に親しむ。⇒ 音読の際にすらすら読める。(暗唱)
⇒ 仮名遣いを理解する。⇒ 見方や考え方を知り、古典の一節を引用する等して実生活に役立てる。

思考・判断・表現◎人との関わりの中で伝え合う。

- A 話すこと・聞くこと B 書くこと。 C 読むこと。**
- ABわかりやすい内容を考える** ⇒ 構成を考える(型を生かす。)⇒ 根拠や考え、立場を明確にする。⇒ 自分の言葉で原稿を作る。 ⇒ 推敲して相手にわかりやすいか見直す。
- AB話し合いをして、自分の考えを広げたり深めたりする**
⇒ ねらいに沿って話し合うことができているか。
- C構造や内容をつかむ** 【文学的文章】まずは、読書に親しむこと。いろいろな種類の本を読む。
⇒ 場面の展開(段落)や登場人物の相互関係、心情の変化等について描写を基に捉える。
【説明的な文章】疑問をもつ。問いと答えをしっかりとおさえる。 ⇒ 段落ごとに何を伝えているのか意識して読む。事実と意見等を注意して要旨を把握する。⇒ 序論・本論・結論を意識する。
- C読み解く** ⇒ 必要な情報に着目し自分の言葉でまとめる。(キーワードを見つけ要約する。)
⇒ 登場人物の言動の意味を考える。 ⇒ 文章以外の情報(図表)を本文と結びつける。⇒ 筆者の伝えたいこと(ものの見方や考え方等)について考えながら読む。(疑問を持ちながら考えを深める)
- C考えを確かなものにして共有する** ⇒ 根拠を基に考えに自信を持つ。⇒ 相手の意見と比較し考えを深める。 ⇒ 知識や経験と結びつける。 ⇒ 人間、社会、自然について自分の考えを持つ。

主体的に学習に取り組む態度◎言葉の価値を認識する。

- 成果を出すためにどのような努力をしたのか**
⇒ 定期試験や小テストに向けて、どのような調整や努力を行ったのか。
- 学んだことをふり返りにまとめる** ⇒ 単元から学んだ内容をふり返りにまとめる。

	第1観点	第2観点	第3観点
A	定期テスト・小テスト等の、知識・技能に関する問題の<u>点数が8割以上</u>。 ＊知識・技能とは、漢字・文法・言葉の使い方・古典等の基礎知識。	定期テスト・小テスト等の読む、また、話す・聞く・書くに関する問題の<u>点数が8割以上</u>。授業のねらいに沿ったふりかえりを書き、<u>第1観点を学んだことを生かし、自分の考えを表現することができる</u>。	<u>第1第2観点を身につけるために、ワーク等を繰り返し行い、定期試験の点数につなげている</u>。また、ふり返りで自分の苦手を理解し、具体的な努力の方法を考え、実行している。
B	定期テスト・小テスト等の、知識・技能に関する問題の<u>点数が4割以上</u>。	定期テスト・小テスト等の、読む、また、話す・聞く・書くに関する問題の<u>点数が4割以上</u>。 学んだことを生かし、振り返りが書けている。	<u>ワーク、ノート等を提出している</u>。 <u>ノートを丁寧に写すことができる</u>。 ワークに取り組むことができる。丸付けまでしっかり取り組んでいる。 自分の苦手をチェックしている。
C	定期テスト・小テスト等の、知識・技能に関する問題の<u>点数が4割未満</u>。または受けていない。	定期テスト・小テスト等の、読む、また、話す・聞く・書くに関する問題の<u>点数が4割未満</u>。または受けていない。 授業の振り返りが書けていない。ねらいに合っていない、<u>感想だけになっている</u>。一言だけ等。	<u>やるべきものを行っていない</u>。 丁寧にノートをとれていない。ワークに取り組めない。丸付けがなく、ただやっているだけ。<u>答えを写しているだけ</u>。

美術

～遊び心を忘れちゃだめ！～

Don't
FORGET
to play



知識・技能

授業の導入では、正しい道具の使い方や制作手順などを動画や資料を使って説明します。その時にしっかりと覚えていないと大きな失敗や、怪我をしてしまうこともあります。わからないところは質問をしたり、友達にきいたりしながら、実践の中で知識や技能を身につけましょう！

- ①形や色彩などの性質や感情にもたらす効果を理解している。
- ②道具の正しい使い方、制作手順を理解している。
- ③魅力的な作品を仕上げることができる。

思考力、判断力、表現力

表現に正解はありません。自由です。頭を柔軟にして、心のままに楽しみながら表現してみましょう。あなたの表現はあなただけのものです。人と同じではつまらない。失敗したと思ったときにも、そこから試行錯誤しながらより良い作品を作り出そうとすることが大切です。

魂を込めて作り出した作品は必ず魅力的に輝きます。

「思考力、判断力、表現力」は人生を通して様々な場面で役立つ力だと思います。培っていきましょう。

- ①表現したい世界観、何を伝えたいのかなどイメージをもっている。
- ②制作の中で創意工夫しながらよりよい作品を作りだそうとしている。
- ③見通しをもって、期日までに作品を完成させている。
- ④「鑑賞」をとおして、作者の心情や、作品の良さや美しさを感じとる。

主体的に学習に取り組む態度

「美術は楽しく！」がモットーですが、楽しくやるためには真剣に、一生懸命にやるのが大事です。関係のないことでふざけていたり、手を抜いた作品は人を惹きつけるものにはなりません。（一生懸命に、真剣に“ふざけた作品”を作るのであれば、素敵な作品になります。）

- ①作品をより良いものにしようという意欲がある。説明は真剣にきく。制作には集中！
- ②表現技法を効果的に取り入れたり、参考作品をみて、良いところを自分の作品に生かそうと工夫する。
- ③時間に遅れない。忘れ物をしない。準備や片付け、清掃などを協力して行う。

	第1観点	第2観点	第3観点
A	表現上の技法や知識、道具の使用方法を理解し、作品制作に効果的に取り入れて、極めて完成度の高い作品を仕上げる事ができている。また、制作手順を理解し、効率よく制作することができる。 小テストの点数が極めて高い。	自分の世界観を持っていて、アイデアスケッチなどの発想が極めて豊かである。 制作の中でイメージを形にするために様々な工夫がみられる。 発表会や鑑賞会のワークシート、レポートなどの内容の質が極めて高い。	作品制作に集中し、学んだことを作品制作に取り入れて完成度を高めていこうという意欲が極めて高い。 自主的に技法を研究したり、必要な資料などを自分で準備したりすることができる。
B	制作手順を理解し、見通しをもって制作することができる。 完成はしたが、表現上の工夫があまりない。または、極めて技術が高いが、完成することができていない。 道具を正しく使用することができる。 小テストの点数が普通～高い程度。	アイデアスケッチなどの発想力が普通～高い程度。 制作の中で表現の工夫が見られるが、イメージを形にする力がやや弱い。 発表会や鑑賞会のワークシート、レポートなどの内容の質が普通～高い程度。	美術の創造活動の喜びを味わい、感じ取ったことや考えたことを基にした表現活動に楽しみながら取り組んでいる。 忘れ物をせず、授業に基本的に必要なものを準備することができる。
C	制作手順や道具の使用方法を理解できていない 作品制作が全く進んでいない。 小テストの点数が極めて低い、または受けていない。	作品に自分なりの表現の工夫がみられない、または作品制作がほとんど進んでいない。 発表会や鑑賞会のワークシート、レポートなどの内容の質が極めて低い。または未提出。	制作に集中することができていない。 忘れ物が多く、授業に必要なものを準備することができない。 遅刻や欠席が多い。 使用した道具を片付けることができない。

音楽 ～音楽文化と豊かに関わるために～

知識・技能

- ① 大きく響きのある声、及び正しい音程、言葉で歌うことができる。
- ② 楽器を使い、音色や指使いなどに気をつけて演奏することができる。
- ③ 音楽の構造や記号について理解し、自分なりに旋律や音楽を作ることができる。
- ④ 伴奏や他者の演奏を聴きながら、合わせて演奏することができる。

思考・判断・表現

- ① 曲に合った音色や強弱等を考え、工夫して表現できる。
- ② 曲や演奏に対する評価とその音楽的根拠を言葉で友人と伝え合い、論じ合うことができる。

主体的に学習に取り組む態度

- ① 歌や楽器の演奏、音楽づくりなどに様々な表現を試しながら積極的に取り組んでいる。
- ② 知識や技能を得たり活用したりしながら、協力して音楽活動を楽しんでいる。



	第1観点	第2観点	第3観点
A	定期テストの点数が きわめて高い。 学習した器楽や歌唱 等の技術を習得し、 間違えずに楽曲を演 奏・発表することが できる。 自分の演奏する音色 や他者との音の重な り等を感じ取り、調 整して演奏・発表す ることができる。	学習したことを活か し、より良い演奏や 創作、表現の工夫が できる。 曲や演奏に対する評 価とその音楽的根拠 を言葉で友人と伝え 合い、論じ合うこと ができる。	知識や技能を得たり 活用したりするた めに、積極的に学習に 取り組み、より良い 演奏につなげること ができる。
B	定期テストの点数が 6割以上。 学習した器楽や歌唱 等の技術を習得し、 概ね間違えずに楽曲 を演奏・発表するこ とができる。 音楽的根拠を明らか にしなが、鑑賞文 を書くことができ る。	学習したことを活か し、演奏や創作、表 現の工夫ができる。 曲や演奏に対する評 価とその音楽的根拠 を言葉で表現するこ とができる。	知識や技能を得たり 活用したりするた めに、積極的に学習に 取り組んでいる。 忘れ物がなく、配付 プリント等を丁寧に 保管・記入してい る。
C	定期テストの点数が 低い、または未受 験。 歌や器楽の曲を演奏 したり、創作したり することが、技術的 に難しい。	学習したことを活か し、演奏や創作、表 現の工夫をすること が難しい。 曲や演奏に対する評 価とその音楽的根拠 を言葉で表現するこ とが難しい。	知識や技能を得たり 活用したりするた めの学習に取り組むこ とが難しい。 配付プリント等を丁 寧に保管・記入する ことが難しい。

保健体育

～健やかな身体をつくろう～



知識・技能

- ① テストにおいて体育分野。保健分野で学習したことを理解し、解答することができる。
- ② 先生の説明や教科書の内容、仲間のアドバイスから学習のポイントを理解することができる。
- ③ 種目の技能や記録を向上させることができる。
- ④ 技能のポイントを理解し、表現することができる。

思考・判断・表現

- ① 学習のポイントを理解し、表現することができる。
- ② 仲間にアドバイスができ、また仲間からのアドバイスを自分の取り組みに活かすことができる。
- ③ 個人・集団の活動を振り返り、学習カードにまとめることができる。
- ④ 定期テストにおいて保健分野で学習したことを理解し、自分の考えを用いて解答することができる。

主体的に学習に取り組む態度

- ① 靴ひもを結び、授業にふさわしい服装・姿勢で授業に参加できる。
- ② 授業開始時間を守り、準備や片付けを率先して行うことができる。
- ③ 無駄な私語がなく、顔が上がった態度で話を聞くことができる。
- ④ 安全に配慮しながら授業に参加することができる。
- ⑤ 自分の課題に対して粘り強く取り組むことができる。
- ⑥ 自分や集団の課題に対して、仲間と協力して主体的に取り組むことができる。

	第1観点	第2観点	第3観点
A	体育分野、保健分野のテストの点数が極めて高い。 学習した技能をゲームにおいて大いに発揮できる。 仲間からのアドバイスを理解し、自分の技能を調整できる。	学習のポイントを考え、自分なりに表現ができる。 個人や集団の課題把握と解決策を学習カードにまとめている。 定期テストの保健分野で学んだことを、自分の考えを用いて解答できる。	授業のルールを守り、真剣に学習に取り組むことができる。 日々の授業に主体的に取り組み、自分の課題に粘り強く取り組むことができる。
B	体育分野、保健分野のテストの点数が普通～高い程度。 学習した技能をゲームにおいて発揮できる。 仲間からのアドバイスを理解できる。	学習のポイントを考えることができる。 個人や集団の課題把握し、ノートにまとめている。 定期テストの保健分野で学んだことを解答できる。	真剣に学習に取り組むことができる。 日々の授業に主体的に取り組み、自分の課題に取り組むことができる。
C	体育分野の小テストの点数が低い、または未受験。 学習した技能をゲームで発揮することが難しい。 仲間からのアドバイスを理解することが難しい。	学習のポイントを考えることができない。 個人や集団の課題を学習カードにまとめることが難しい。 定期テストの保健分野で学んだことを解答することが難しい。	授業のルールを守り、学習に取り組むことが難しい。 日々の授業に主体的に取り組み、自分の課題に取り組むことが難しい。

知識・技能

授業に対して Look（よく見る）、Listen（よく聞く）を大切にしましょう。

製作工程・使用する道具や機械・使用上の注意（安全面）や作業上のポイント（製作効率）をしっかりと抑えましょう。

小グループでの協力を意識し安全かつ効率よい実践をしましょう。

思考・判断・表現

- ① 実生活の中で、様々なものに興味をもちましょう。
このような物があれば生活が豊かになる。暮らしやすい。などの考えをもちましょう。
- ② 「なぜ?」「どうして?」「どうすれば・・・」「もっと〇〇してみよう」これらのすべては技術科の能力向上の第一歩です。レポートなどにまとめられるようにしましょう。
- ③ どのように作業すれば、安全にかつ効率よく製作できるかを考え・判断し実践できる。
- ④ 最適化を意識し、新しい技術と社会の関係について興味をもちましょう！

主体的に学習に取り組む態度

- ① 学習の合言葉を意識して授業中実践しましょう。
『型は心を造り、心は型を造る』
準備（時間・持ち物・服装）を確実に
心を込めて作品（自分自身）をつくろう。
- ② ノート作りを丁寧に。
ノートを見返したときに、どのようなことを学んでいたかを、すぐに振り返ることができるようにまとめる。



	第 1 観点	第 2 観点	第 3 観点
A	定期テストの点数および作品の完成までの進行具合と完成度がきわめて高い。	レポート等の質がきわめて高い。	学習の合言葉の実践やノートまとめ等の取り組みの質がきわめて高い。
B	定期テストの点数および作品の進行具合と完成度が普通～高い程度。	レポート等の質が普通～高い程度。	学習の合言葉の実践やノートまとめ等の取り組みの質が普通～高い程度。
C	定期テストの点数および作品の進行具合と完成度が低いまたは未実施。	レポート等の質が低いまたは提出されていない。	学習の合言葉の実践やノートのまとめ等の質が低いまたは未提出

知識・技能

①自分の生活や、家族の生活を見つめ、「生活をより良くしていくためにはどうしたらよいか」ということを考えて実践しましょう。

…生活の中から問題を見出し、課題を設定し解決する力（持続可能な社会への協力）

②実習では特に、ルールを守り「安心・安全・協力(働)」を心がけて取り組みましょう。自ら進んでやってみることが大切です。

…これまでの学習の中で習得した知識や技術を活かして実践できる能力。

思考・判断・表現

①日頃の生活をふり返り「生活をより良くする」ということを考えましょう。

…生活の中から何が問題かを見出し、工夫・改善策を考える力

…生活の営みに係わる見方・考え方（問題解決能力）

②日々のニュースや新聞、身近な情報に目を向けてみましょう。



③テストに向けて、授業でやったこと（教科書通りとは限らないので）をノートにしっかりと取っておくことが大切です。

主体的に学習に取り組む態度

①自分の生活や、家族の生活をふり返り、「生活をより良くするにはどうしたらよいか」ということを考えましょう。そして、話は集中してしっかり聞きましょう。

…生活の中から問題を見出し、課題を設定し改善しようとする態度（問題解決能力）

…生活の営みに係わる見方・考え方を持って、その事象に取り組んでいる。

②これまでの学習を生かし、生活の中で挑戦しましょう。家でやっているかいないかは、実習の理解度も違います。



	第 1 観点	第 2 観点	第 3 観点
A	定期テスト・小テストの点数がきわめて高い。作品の完成までの進行具合と完成度が高い。	小テストの点数及びワークまとめ・レポートの質がきわめて高い。作品の完成度が高い。	テストの反省用紙・ワークの取り組みがきわめて高い。
B	定期テスト・小テストの点数が普通～高い程度。作品の進行具合と完成度が普通～高い程度。	小テストの点数及びワークまとめ・レポートの質が普通～高い程度。作品の完成度が普通～高い程度。	テストの反省用紙・ワークの取り組みの質が普通～高い程度。
C	定期テスト・小テストの点数がきわめて低いまたは受けていない。作品の進行具合と完成度が低いまたは未完成。	ワークまとめ・レポートが提出されていない。作品の完成度が低いまたは作品に反映されていない。	テストの反省用紙・ワークに取り組まない。

道徳

～自分らしい生き方についての考えを深めるために～

中学校では、令和元年度から「特別の教科 道徳」として、教科として道徳の授業が行われるようになりました。道徳の授業を今までよりももっとしっかり行うようになったのは、主に次のような理由があります。

1. 深刻ないじめの本質的な問題解決に向けて
2. 情報通信技術の発展と子供の生活
3. 子供をとりまく地域や家庭の変化
4. 諸外国に比べて低い、高校生の自己肯定感や社会参画への意識
5. 与えられた正解のない社会状況

くわしくはこちら



子どもたちが安心して楽しい中学校生活を送るために、社会規範やマナーを守りながら自他の生命を大切にできる広い心を育てるような授業を行っていきます。

評価については、他の生徒と比べることなく、その生徒自身がどのように成長したかを、数値ではなく記述で行います。進学に関わる書類への記載も行いません。

人間としての生き方を、深く考える。

主として自分自身に関すること
主として人とのかかわりに関すること
主として集団や社会とのかかわりに関すること

自分自身を見つめ、物事を広い視野から多面的に考え、人間としての生き方についての考えを深めていきます。

さまざまな出来事に触れ、未知の世界へ。

主として生命や自然、崇高なものとのかかわりに関すること

日常に近い内容だけでなく、世界的な内容まで、いろいろなことについて考えていきます。また、人々の力強い生き方や、人間の力を超えた自然の大きさなどについても考えていきます。

保護者の方へ



①毎日一定時間は必ず勉強させてください

心理学的にも、学習や作業などをする場合は、続けてやるよりも少し間を開けて休み休みやる方が、効率が上がることが様々な研究で言われています。よくテスト前などになって、一夜漬けで暗記などをする人がいますが、自分の力になりません。やはり、毎日一定時間少しずつでも勉強することが一番です。学習法の基本的ルールにあるように「決まった時間」「集中」してやるのが大事なので、時間をだらだら使わずに、けじめのある学習を心がけさせてください。学習時間の目安は(学年+1)時間です。集中させるためには、「計画の立て方」「休み時間の取り方」「気分転換の方法」「テレビの見方」など色々な手がかりが考えられます。

学習したものは、そのままにしておけば忘れてしまうものなので、特に英語の単語や国語の漢字などは、繰り返し学習することが効果的です。

また、1つの教科ばかりを長く学習するのではなく、得意教科や不得意教科、あるいは異なった内容の教科を組み合わせると記憶が薄れてしまう事も比較的防ぎやすいでしょう。

②「認め」「励まして」あげてください

心理学によると同程度の学力を持ちながら、何らかの不安を持った子は、持たない子の 50～58%くらいしか実力を発揮できないという事がわかっています。また、「できそうもない」「あきらめた」と思った瞬間、頭脳は緊張・集中を失い、いったん緩んでしまった思考力を取り戻すのは、なかなか難しいものです。反対に、「できる」と思いこんで行動すると、だれでも力を発揮します。また、「認め」「励ます」のは学習意欲を育てる上で大切なことです。

過度な期待から、一方的な要求を子供にするのではなく、誰でも自己の能力に悩みや不安を抱きがちなこの時代の子供に対し、不安を最小限に食い止めてやる努力や、親自身が焦ることなく、子供の努力を認め励ましてやる配慮こそが、人生の先輩としての親の役目ではないでしょうか。

なお、そのためにも学級担任との連絡を緊密にしていきたいと思います。今、子供がどんな点に突き当たり悩んでいるか、あるいはどのような努力をしているか、学校ではどうか等々、お話し下さることが家庭と学校の協力体制の基本だと思います。

通知表について

本校では、前期・後期それぞれの終わりに通知表を発行し、生徒の学習成績や生活の様子をご家庭にお知らせしています。つきましては今年度、通知表の評価と評定との関連を以下のとおりとしますので、通知表の内容をご覧になる際の参考にしていただき、今後の学習などにお役立て下さい。

1. 観点について

第①観点＝「知識・技能」・・・何を理解しているか・何ができるか。

第②観点＝「思考・判断・表現」・・・理解していることをどのように判断し、表現するか。

第③観点＝「主体的に学習に取り組む態度」・・・第①・第②観点を獲得するために自ら学ぼうとしているか。

2. 観点の組み合わせと評定について

第①観点 知識技能	第②観点 思・判・表	第③観点 主体性	評定
A	A	A	5 (9点)
A	A	B	4 (8点)
A	B	A	4 (8点)
B	A	A	4 (8点)
A	B	B	3 (7点)
B	A	B	3 (7点)
B	B	A	3 (7点)
B	B	B	3 (6点)
B	B	C	3 (5点)
B	C	B	3 (5点)
C	B	B	3 (5点)
B	C	C	2 (4点)
C	C	B	2 (4点)
C	B	C	2 (4点)
C	C	C	1 (3点)

例えば、同じ評定「3」でも ABBとBBBではアドバイスの内容が変わってきます。ABBの生徒には「もう一つAがつけば4になるからooを頑張ろう」と助言できますし、BBBの生徒には、「どれか得意な観点を一つAがつくように頑張ろう」と助言できます。1人1人の生徒の学習に合った助言ができるよう、大穴中学校では考えています。(詳

しくは学校から配布される「学習のしおり」をお子様と一緒に

前期通知表における総合所見につきましては、作成をしておりません。その代わりに三者面談を行って、お子様の学校での様子を各ご家庭にお伝えする機会とさせていただきます。ご了承ください。